

Red Data Book of Wakayama Prefecture

生物多様性保全上注目すべき地域

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
1	加太沿岸域	島嶼海岸森林自然林	<p>本地域は、中生代白亜紀後期の和泉層群からなり、東に傾斜する向斜構造の北翼にあたる。</p> <p>磯ノ浦から深山にかけての海岸には、本層群下部の加太累層が分布し、フリッシュ型の砂岩泥岩互層や凝灰岩層からなる。本累層中から、イノセラムスやウニ、コダイアマモ等の化石が産出し、底痕が顕著である。</p> <p>友ヶ島は、地ノ島、沖ノ島及び近接の虎島、神島で構成される。本層群最下部の友ヶ島累層が分布し、主に成層砂岩、砂岩優勢互層、礫岩層からなる。本累層中から、イノセラムスやアンモナイト等の化石が産出する。友ヶ島にある深蛇ヶ池の堆積物には、津波堆積物が挟まれている。</p> <p>加太沿岸域全体にわたって、ウバメガシを主とした海岸風衝林が成立している。沖ノ島の2ヶ所の湿地には、湿地性植物群落が発達し、テツホシダとヒトモトスキの北限群落が形成されている他、ハンゲショウの大規模群落がある。一方で、かつて生育していたサンショウモとアカウキクサは消滅した。沖ノ島のトサムラサキも貴重である。地ノ島および大川峠には県内で唯一、オオカラスウリの生育が認められる。</p> <p>また、自然海岸が残り、礫底から砂礫、砂底といった底質の変化が多様であるため、多様な魚類が生息している。この地域は、瀬戸内海の冷たく栄養分を含んだ海水が友ヶ島以北から供給されることで藻場が形成されるため、幼魚の成育場として貴重である。更に、マダイやマアジ、マサバ等の水産重要種の漁場であるとともに、クサフグ等の産卵場所としても知られる。</p> <p>貝類では、加太周辺の海岸から、137科731種（多板綱：8種、腹足綱：544種、掘足綱：5種、二枚貝綱：173種、頭足綱：1種）の干潟・汽水域産貝類（ウミヒメカノコ、ウネボラ、フジナミガイ、シグマクダマキ等）の記録がある。この地域は種類数から考えれば、海産貝類相が豊かであると言える。</p> <p>また、岩礁海岸の動物として、ウメボシイソギンチャクやスズメガイダマシ等、この地域に特異的に出現するものがある。ヒメイソギンチャク、ヒラトゲガニ、カモガイ等も、県内の他の海岸では少ないが、当地では個体数が多い。</p> <p>哺乳類では、和歌山市友ヶ島で1955年にニホンカワウソの死体1頭、1954年と1955年に足跡の確認記録があり、本州では最も遅くまで生息が確認できた地域である。</p> <p>鳥類では、加太周辺はタカ渡りコースの一つとなっており、春と秋に多数のタカ類が通過する。他には、小鳥類の中継地にもなっており、多数が通過する。</p> <p>爬虫類では、この地域の建物にニホンヤモリが生息する。大川峠下の海岸林は、かつてタワヤモリの生息地として知られていたが、近年、確認できていない。</p> <p>昆虫類では、加太の海岸林を基産地とする地下浅層性のゴミムシとして、カダメクラチビゴミムシ、タカモリメクラチビゴミムシ、キタヤマメクラチビゴミムシがある。また、レッドデータブック掲載種として、ニシキキンカメムシ、ヨツボシカミキリ、アヤマネスジタマムシ等が記録されている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	和歌山市
2	和歌山城公園	緑地森林里山林	<p>和歌山市の中央部にある標高48mの丘陵性の虎伏山は、暖帯性の常緑樹と落葉樹が混生した森林に覆われ、自然環境も豊かである。本地域には、かつて、良好なホルトノキ林が成立していたが、そのほとんどは枯死し、また、ムクノキの大木の多くが空洞化しており、危険防止のために伐採整理されている。一方で、エノキ、ケヤキ、クスノキ、カゴノキ（常緑樹）等が目立つようになってきた。ツメレンゲ及びマツバランの生育は貴重である。</p> <p>菌類では、クモタケの発生が確認されている。</p> <p>鳥類では、この地域は都市の中に孤立した緑地があるため、野鳥の種類が多く、身近な野鳥観察地として適している。</p> <p>昆虫類では、この地域は過去の和歌山市における昆虫相を残している貴重な存在である。レッドデータブック掲載種としては、クロツバメシジミ、オオサカスジコガネ、コカブト、オオヒョウタンゴミムシ、クロマダラタマムシ等が記録されている。</p> <p>貝類では、この地域において19種の陸産貝類が報告されている。中でもイトカケギセル等、キセルガイ科貝類は4種が報告されており、イトカケギセルはこの地域がタイプ産地となっている。他にクチマガリマイマイ、ギユウリキマイマイ等が生息している。</p> <p>【鳥類（沼野正博）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹・谷関俊男）】</p>	和歌山市

生物多様性保全上注目すべき地域

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
3	紀伊風土記の丘及び大日山周辺	里山	<p>本地域は、クヌギ、コナラ等からなる遷移の進みつつある里山林であり、最近ではツブラジイ（コジイ）、アラカシ、シラカシ、ヤブニッケイ等、常緑広葉樹が目立つようになってきている。大径木の増加に伴って、ナラ枯れの被害が拡大しつつある。</p> <p>また、菌類では、過去にニイニイゼミの幼虫に寄生するセミタケが大量発生していたこともあったが、最近では発生が確認されていない。その他、シロテングタケ、コトヒラシロテングタケ等の発生が確認されている。</p> <p>【菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）】</p>	和歌山市
4	根来山げんきの森及び春日神社周辺	里山 自然林 森林	<p>本地域は、中生代白亜紀後期の和泉層群の信達累層が分布し、泥岩優勢もしくは砂岩優勢の砂岩泥岩互層からなる。東に傾斜した向斜構造（孝子向斜）の南翼にあたる。森の南には、中央構造線の鳴滝断層及び根来断層がほぼ東西に延びる。</p> <p>この地域は、昭和40年代の大規模な山火事後に成立した、コナラ、ヤマザクラ、エノキ等を主とする遷移途上の里山林である。近年はクスノキの侵入が著しい。春日神社にはツブラジイ（コジイ）林が成立している。</p> <p>菌類では、オオセミタケ、カゴタケ、ソライロタケ等の発生が確認されている。その他、南方熊楠が発見した変形菌のアオウツボホコリの数少ない発生地である。</p> <p>鳥類では、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ等、森林性の野鳥が多く生息する。昆虫類では、根来山げんきの森には、ミズイロオナガシジミやアカシジミ等の里山を代表するシジミチョウが生息し、オオムラサキも安定してみられる。土仏峠はハスジゾウムシの数少ない生息地でもある。</p> <p>なお、根来山げんきの森は、市民グループと行政の協働による保全活動が行われている。</p> <p>【鳥類（沼野正博）、昆虫類（的場 績）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	岩出市 紀の川市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
5	紀の川流域	河川 河川敷 湿地 里山 森林 干潟 砂浜 海岸 河畔林 氾濫原 草地	<p>紀の川は、県内においては橋本市隅田から和歌山市湊にかけて、中央構造線の南側に沿って西流し、紀伊水道へと注ぐ。中央構造線の活動は、後期白亜紀の和泉層群の堆積時期まで遡り、第四紀完新世まで続く活断層である。</p> <p>紀の川の歴史もこの中央構造線の活動と深く関係し、大阪層群相当層の菖蒲谷層は、中央構造線の北傾斜の逆断層による下盤側の東西方向の凹地（古紀の川）に堆積した。更に、更新世になると、古紀の川の河床堆積物が河岸段丘を、完新世には沖積平野を形成した。</p> <p>紀の川右岸の粉河付近では、3段の段丘面をもつ河岸段丘が発達し、低位段丘は和歌山市園部付近まで続く。いずれの段丘面も、和泉山脈から南流する支谷による開析が進んでいる。左岸側では、河岸段丘の発達は乏しい。岩出市以西では沖積平野が発達する。</p> <p>なお、中央構造線を境にして、その北側の基盤岩は和泉層群の堆積岩、南側は三波川変成帯の結晶片岩類である。</p> <p>流域内には、流域内人口の半数が集中する和歌山市があり、国道24号、26号、42号等の基幹交通施設が交わり、古来より盛んに開発行為が行われている場所である。そのため、希少生物の生息域が開発等によって分断されやすく、生息地が孤立あるいは消滅しやすいという問題点がある。</p> <p>本地域では、県内の主要河川の中で唯一、ジャヤナギ、アカメヤナギ等のヤナギ類、エノキ、ムクノキ、ニワウルシ等からなる河辺林が発達している。下流域にはタコノアシ、ウラギク、カワヂシャ等の生育が認められる。中流域の中州、船岡山には発達したツブラジイ（コジイ）林が成立しており、カンザブロウノキの北限地となっている点でも貴重である。</p> <p>菌類では、今から30年前に、植物の残骸や腐葉土から発生するカワリコシワツバタケが発生した記録がある。</p> <p>哺乳類では、丹生川流域にカワネズミの生息が確認されている。規模は小さいが急峻な地形の森林内には、ニホンウサギコウモリ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ヤマネ、ニホンリス、アカギツネ、ミズラモグラ等の生息が確認されている。</p> <p>鳥類では、この地域にはカモ類が多数渡来して、越冬する。年により、ナベヅルが越冬することもある。河川敷では小鳥が多数越冬し、それを餌とする猛禽類も多い。</p> <p>紀の川流域は、水田・畑・果樹園等で利用され、都市化も進んでいる。その中で、水田・湿地・池等にトノサマガエル、ツチガエル、ニホンイモリ等が生息し、それらを捕食するヘビ類も棲む。</p> <p>また、この地域は草食性昆虫の貴重な生息地であり、氾濫原に依存する昆虫類や水生昆虫の貴重な生息域である。レッドデータブック掲載種としては、シルビアシジミ、ツマグロキチョウ、カワラハンミョウ、カワラゴミムシ、セアカオサムシ、ダイミョウアトキリゴミムシ、ツシマヒラタシデムシ近畿地方亜種、エサキアメンボ、ナニワトンボ、ヒメゴマダラオトシブミ等が記録されている。</p> <p>紀の川は河口域に広大な汽水域を持つ一級河川であり、かつては和歌浦湾へ注いでいた経緯を持つ河川である。汽水域には、干潟が形成され、そこにはシオマネキが数多く生息する他、トビハゼやマサゴハゼ、アカメ、サツキマス（アマゴ）等の希少な種を含む、多くの魚類が生息している。また、貴志川をはじめとした支流を数多く持ち、人為的攪乱を受けつつも、コイ科、ドジョウ科魚類に見られるような琵琶湖・淀川水系の影響が色濃く残る淡水魚類相が形成されている。外来魚の影響を受けて非常に危機的ではあるが、和歌山平野のため池等にはタナゴ類やハゼ類等の希少な淡水魚類が辛うじて生き残っている。</p> <p>和歌山市南西部に位置する和歌川河口干潟は、旭橋付近より下流域に形成される35ヘクタールの面積を有する県内最大の干潟である。貝類では絶滅危惧種Ⅱ類のワカウラツボ、ウミニナ、ヒナユキスズメ、カニノテムシロ、サザナミツボ、イボウミニナ、コメツツララ等が生息する。</p> <p>和歌川の河口部付近では、日本の他地域からも記録の少ないミサキギボシムシ、ムラサキガイ、ヤドリカニダマシの生息が見られ、河口域奥部にある干潟には県内の他地域では極めて稀なオサガニ、マメコブシガニが数多く見られる。</p> <p>そのため、紀の川河口域、和歌川河口域ともに、国の重要湿地に選定されている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（竹中利明）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、菌類（菌類専門部会）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	和歌山市 岩出市 紀の川市 かつらぎ町 橋本市 九度山町 高野町

生物多様性保全上注目すべき地域

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
6	平池周辺	ため池 湖沼 湿地 里山 草地	<p>平池は、中世に灌漑用として造られた人工池で、和歌山県三大用水池の一つとされている。</p> <p>本地域は、浮葉植物や沈水植物等の水生植物の貴重な生育地であり、かつてはマコモ、ショウブ、ガマ、クサヨシ、アシカキ等の大群落が成立していた。また、以前に見られたオニバスは近年確認されていない。ジュンサイ、ガガブタ、スイラン、ミミカキグサ、サワギキョウ等の植物も既に絶滅した。</p> <p>この地域には、カモ類が多数渡来して越冬する。ミコアイサ等、和歌山県では数少ない種類の出現頻度が高い。</p> <p>また、人為的攪乱の大きい水域であるが、ハゼ科等の希少な淡水魚類がわずかに残っている。</p> <p>更に、周辺には田畑等の耕作地やそれを取り囲む里山が広がる等、爬虫類・両生類の生息に好適な環境が残されている場所と言える。</p> <p>【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（竹中利明）、魚類（平嶋健太郎）、植物（高須英樹）】</p>	紀の川市
7	龍門山	森林 草地	<p>標高 756.3 m の龍門山は、三波川変成帯の結晶片岩類からなる地帯に位置し、紀州富士とも呼ばれる。主に塩基性片岩と泥質片岩からなり、石英片岩を挟む。また、山頂周辺には超苦鉄質岩体が見られ、ダン橄欖岩の他、単斜輝石橄欖岩、斑禰岩等を伴い、多くは蛇紋岩化している。山の北斜面には蛇紋岩からなる風穴洞があり、古くは養蚕に利用されたと言われている。</p> <p>本地域では、地質学的な特性から、アカマツのやや疎林的な群落が成立していたが、アカマツの枯死に伴って遷移が進みつつある。山頂部の蛇紋岩露出地はイネ科草原となっており、リンドウ、ヤマラッキョウ、ムラサキセンブリ、タムラソウ、ヒメノダケ等、貴重な草原性植物の生育が見られるが、近年、草地の衰退が認められる。イワシモツケ（キイシモツケ）の大きな群落が成立していることも貴重である。</p> <p>また、この地域は、ギフチョウの県内唯一の生息地であった。それ以外にも、カマアシムシの未記載種やリュウモンザンツチゾウムシ等の固有種が生息している。レッドデータブック掲載種では、オオミドリシジミ、セアカオサムシ、エゾゼミ、マエモンシデムシ、ミゾムネアカコメツキ等が記録されている。</p> <p>なお、龍門山は、市民グループと行政の協働による保全活動が行われている。</p> <p>【昆虫類（的場 績）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	紀の川市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
8	高野山 周辺	森林	<p>楊柳山（標高 1,008.5 m）の北側は紀の川水系の、南側は有田川の源流になり、その源流の支谷に形成された狭小な緩傾斜地に寺院が建つ。</p> <p>高野山周辺には四万十付加体の高野山帯が分布し、上部白亜系の花園付加コンプレックスの砂岩泥岩互層及び泥岩や緑色岩類等からなる。本地域には北東―南西に延びる北傾斜のスラストが発達する。</p> <p>本地域の弁天岳南西面と摩尼山南西面にはモミヤツガを主とした貴重な中間温帯林が残存している。高野山が唯一の生育地であったサクラソウは絶滅したが、多くの絶滅危惧種の生育が認められ、極めて貴重である。人為管理下の森林ではあるが、奥の院のスギ林、女人堂北面のコウヤマキ林も貴重である。また、草本では、コウヤカンアオイ、コウヤシロカネソウ、コウヤハリスゲ、コウヤハンショウヅル、コウヤワラビ、ミヤマエンレイソウ、ヤマトグサ等、多くの絶滅危惧種の生育が認められたが、その多くがニホンジカの食害によって大きく数を減らしている。</p> <p>菌類では、主にブナの倒木に群生する発光性のあるツキヨタケや針葉樹（モミ類）と菌根を作るウスタケの発生地である。</p> <p>哺乳類では、市街地を取り巻く森林は大木が多く管理が行き届いているため、コウモリ類や樹上棲の齧歯類の良い生息場となっている。ニホンウサギコウモリ、ノレンコウモリ、テングコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ等の生息が確認されている。奥の院に林立するスギの大木にできた樹洞は、ムササビのねぐらとなっている。周辺の森林内では、ニホンモモンガ、ヤマネ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、アカギツネ、ニホンリスの生息が確認されている。また、草原性のカヤネズミも生息する。</p> <p>鳥類では、キバシリやキクイタダキ等、和歌山県では希少な種が繁殖している。これら以外にも、アカショウビンやミソサザイ等、自然度の高い森林に生息する種が多く見られる。</p> <p>高野山は宗教上の聖地であるため、照葉樹林帯上部から落葉樹林帯に生息する様々な爬虫類・両生類の環境が維持されている。特に、モリアオガエルは高野山の湿地や寺院の庭池、用水池等で産卵している。</p> <p>更に、この地域には古くから関西地方の昆虫採集家が訪れ、多くの昆虫類が記録されている。コウヤナナフシ、コウヤハダカササキリモドキ、コウヤケアブラムシ、コウヤホソハナカミキリ、コウヤコバネナガハネカクシ等、高野山の名を持つ昆虫類がいくつか知られている。レッドデータブック掲載種としては、ルリボシヤンマ、オオコイムシ、キンイロネクイハムシ、ミヤマナカボソタマムシ、ヒゲブトハナカミキリ、イガブチヒゲハナカミキリ、タケウチホソハナカミキリ、ヤマトモンシデムシ、ツシマキモンチラシ、ムラサキシタバ、オオウラギンスジヒョウモン等、多数が記録されている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（竹中利明）、昆虫類（的場績）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	高野町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
9	生石高原周辺	森林 湿地 草地 自然林 草原 牧場	<p>標高 870 m の生石ヶ峰は長峰山脈の主峰で、付近には準平原状の地形が広がる。周辺には、三波川変成帯の塩基性片岩や泥質片岩、珪質片岩等、結晶片岩類が分布する。北西方の黒沢山には、超苦鉄質岩体が見られ、南側の中腹以南には、結晶片岩や緑色岩類、千枚岩等からなる御荷鉢帯の生石層が、更に有田川構造線を挟んで秩父帯の先白亜系が分布する。</p> <p>本地域のススキ草原には、多くの貴重な草原性植物が認められる他、湧水の生じる湿地にはウメバチソウ、サワギキョウ等も生育している。生石神社周辺のアカガシ林も最近の台風によってやや損傷を受けたが、貴重な林である。沼池にはカキツバタ群落が見られ、当池は国の重要湿地に選定されている。</p> <p>菌類では、黒沢山周辺から生石高原付近にコウボウフデやバカマツタケが発生し、和歌山県北部では貴重な地域である。</p> <p>陸産貝類としては、生石高原近くには本県で3ヶ所しか記録がされていない絶滅危惧種・シロモリスアキギセルが生息する。他にオオギセルも観察できる。面積の小さい林叢（アカガシ群落）であるが、陸産貝類の生息地としては貴重である。</p> <p>哺乳類では、生石神社周辺の森林内でアカギツネ、ツキノワグマ及びニホンカモシカが、ススキ草原内でカヤネズミが、生石高原北側の植林内ではニホンモモンガ等の生息が確認されている。</p> <p>また、生石高原とそこから流れ出す水系及びその下流域にはため池が形成されており、その水系やため池周辺には、ニホンイモリやカエル類が生息し、ニホンイシガメや各種のヘビ類が棲む等、爬虫類・両生類の生息環境が維持されている。</p> <p>この地域にある大規模なススキ草原は、草原性昆虫の貴重な生息地になっている。ヒョウモンチョウ類が多種記録されていて、レッドデータブック掲載種としては、セアカオサムシ、ヒメピロウドカミキリ、クニシモフリコメツキ、フタコプリリハナカミキリ、ヒサマツミドリシジミ、ダイミョウアトキリゴミムシ、ヒメゴマダラオトシジミ、ヒメカツオゾウムシ、コカタビロゾウムシ、オオシロオビゾウムシ等、多くの種が記録されている。ムネアカセンチコガネやホソクチゾウムシ科の未記載種、オオダイセマダラコガネ等、多くの希少種も記録されている。黒沢山はニシキキンカメムシの多産地として重要であり、沼池にはクロゲンゴロウ、イネネクイハムシ、コオイムシ、キオビシギゾウムシ等の希少種が生息している。また、現在では絶滅したが、この地域はハッチョウトンボの多産地でもあった。</p> <p>なお、生石高原は、市民グループと行政の協働による保全活動が行われている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（竹中利明）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	海南市 紀美野町 有田川町
10	有田川流域	河川 湿地 里山 森林 干潟 河口域	<p>有田川は、高野山の山城を源に、かつらぎ町、有田川町を南西に流れて有田市で紀伊水道に注ぐ。上流域では林業が、中流から下流域ではミカン栽培が盛んで、川沿いの平地には果樹園や水田、畑地が見られる。有田川はアユ釣りでは全国的に有名で、中流部に位置する二川ダムより下流域で全国大会が開かれたこともある。</p> <p>有田川町上湯川近井には、ブナ林が残されている。最下流域にはまとまったヨシ群落が成立し、ウラギク、ミゾコウジュ、タコノアシ等の絶滅危惧種が生育する。氾濫原には県内では少ないトキワススキの生育が見られる。</p> <p>哺乳類では、流域の森林内にツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。</p> <p>上流域では、マホロバサンショウウオ等が生息し、中・下流域ではニホンイシガメやカジカガエルが、里山周辺では、ニホンイモリ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル等が生息している。</p> <p>昆虫類では、下流域にシルビアシジミ、クロツバメシジミ、ツマグロキチョウ、ツシマヒラタシデムシ近畿地方亜種をはじめ、ヨツボシツヤナガゴミムシ、クロカネコメツキ、セグロツヤテントウダマシ等の希少種が記録されている。二川ダム周辺では、カワラゴミムシが発見されている。源流・上流域ではアイヌテントウやコホソクビゴミムシ、アイヌハンミョウ、コセスジダルマガムシ等が記録されている。</p> <p>また、河口域は、国の重要湿地に選定されており、トビハゼやタビラクチ等の希少な魚類が数多く生息している他、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、コゲツノブエ、タケノコカワニナ等の希少カニ類・貝類が生息する。一方で、周辺や河川の護岸等の開発も進んでおり、環境への影響が懸念される。淡水域では、外来魚も見られるが、支流や源流には比較的良好な状態が保たれた水域が多く、ナガレホトケドジョウやアカザ等の希少な種が生息している。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（高須英樹）】</p>	有田市 有田川町 かつらぎ町 高野町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
11	白馬・護摩壇山系	森林 自然林 河川	<p>標高 1,372 m の護摩壇山から西に標高を減じながら白馬山脈が延びる。</p> <p>これらの地域には、四万十付加体の白亜紀の日高川帯が分布し、主に上部白亜系の美山付加コンプレックスの砂岩、泥岩、礫岩、チャート、緑色岩類からなる。護摩壇山の北側には湯川スラストを境に下部～上部白亜系の湯川付加コンプレックスの砂岩、泥岩、緑色岩が、また南側の下田原スラストを境に、上部白亜系の竜神付加コンプレックスの砂岩、泥岩、珪長質凝灰岩、緑色岩類が分布する。</p> <p>白馬・護摩壇山系は、和歌山県内最高峰の龍神岳を擁する山域で、有田川・日高川の源流域である。この山域では、国有林で和歌山県自然環境保全地域に指定されている西ノ河原生林と亀谷原生林や、京都大学和歌山研究林、若藪山のブナ林、白馬山のブナ林、護摩壇山の自然林が含まれ、冷涼地に生育する落葉広葉樹や針葉樹林が広がっており、生物多様性保全上極めて重要な地域である。</p> <p>護摩壇山上部には、県内最大のブナ・ミズナラ林が成立している。林内にはアカガシやウラジロガシが点在し、太平洋型ブナ林の特徴をよく示している。この林は白馬山系の尾根部にもわずかに残されている。かつて林床を覆っていたスズタケは、ニホンジカの食害によってほぼ壊滅状態であり、草本植物もほとんど見られず、シカ食害防護柵の内部でハスノハイチゴ等の希少種が生育している。谷部には小規模なシオジ林が見られ、林内には県内で唯一、クロカンバの生育が認められる。</p> <p>菌類では、ヌメリツバタケモドキ、ツキヨタケ、ムキタケ、オアオムキタケ、ウスキブナノミタケ、ナメコ、ブナシメジ等のブナ林帯でしか見られない種が多く発生している貴重な地域である。</p> <p>陸産貝類では、ツガ、ブナの自然林が残されている高野龍神国定公園地区の林内で比較的豊富である。樹上性のマルクチコギセル、カギヒダギセル、ニクイロギセル、コンゴウクリイロベッコウ（タイプ産地は大阪府：金剛山）が記録され、多様性に富む。</p> <p>哺乳類では、護摩壇山において、ヒメヒミズ、クロホオヒゲコウモリ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンリス、スミスネズミの生息が確認されている。ニホンジカの食害により林床の多様な生態系が損なわれ、クロホオヒゲコウモリ等の森林性コウモリの餌となる昆虫類が減少し、豊かな森林環境に依存するツキノワグマやニホンカモシカ等の生息が危機的な状況にある。また、白馬山周辺では、ヒメヒミズ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンリス、アカギツネ、ヤマネ等の生息が確認されている。</p> <p>鳥類では、クマタカ、コノハズク、ジュウイチ、コルリ、オオアカゲラ等、希少種が多く生息している。また、和歌山県内でも有数の野鳥の生息地である。特にクマタカは、縄張りが連続して存在する等、生息密度は県内有数である。沢筋には、アカショウビンが生息する。</p> <p>また、この地域は標高の高い山地であり、マホロバサンショウウオ、ナガレヒキガエル、モリアオガエル等が生息し、ヘビ類等の爬虫類も多い。</p> <p>更に、護摩壇山はゴマダンと名の付く昆虫を始め、多くの甲虫類のタイプ産地になっている。吉田元重の調査によると、約 1,500 種の昆虫が記録されており、ヒサマツミドリシジミ、ウラキンシジミ、ルリクワガタ、ツヤハダクワガタ等、多くのレッドデータブック掲載種の生息地である。護摩壇山から白馬山へと続く白馬山脈の稜線部は、護摩壇山からの多くの昆虫類の移動のための回廊として重要な存在である。従って、ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ、ヒサマツミドリシジミ、クモガタヒョウモン、フタコブルリハナカミキリ等、護摩壇山に生息する多くの希少種やレッドデータブック掲載種が生息している。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、昆虫類（的場績）、貝類（湊 宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	田辺市 有田川町 日高川町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
12	西有田～煙樹海岸	海岸 島嶼 湿地 里山 森林 自然林 砂浜 干潟 磯浜	<p>宮崎ノ鼻から日ノ御埼にかけての海岸は、概略的には沈降性のリアス海岸で、大小様々な入り江が見られる。煙樹ヶ浜は、カブスとストームベンチが発達した磯浜で、和歌山県内では最大規模である。</p> <p>宮崎ノ鼻から白崎南の神谷までは秩父帯の先白亜系の堆積岩類や緑色岩類及び白亜系の堆積岩類が分布するが、鷹島と黒島を含む名南風鼻周辺は黒瀬川構造帯の火成岩類、変成岩類、チャート、石灰岩が狭く分布する。一方、仏像構造線を挟んで神谷から比井にかけては、四万十付加体日高川帯の下部～上部白亜系湯川付加コンプレックスの堆積岩類が、また、小鶴谷スラストを挟んで三尾までは、日高川帯の上部白亜系美山付加コンプレックスの堆積岩や緑色岩類が分布する。</p> <p>本地域は、都市圏から離れた地域に点在する島嶼及び海岸と地域に根差した耕作地と、それを維持する里山及び湿地、灌漑ため池が広がる地域である。そのため、古くから人間の社会生活と共存することができる在来の爬虫類や両生類が今も数多く生息する。河川や池にはニホンイシガメが生息し、湿地にはセトウチサンショウウオ、ツチガエル、トノサマガエル等の両生類が生息する。</p> <p>昆虫類では、海浜性のシロヘリハンミョウやイソジョウカイモドキ等、レッドデータブック掲載種の貴重な生息地であり、宮崎ノ鼻はハスジゾウムシの数少ない生息地である。また、西有田～煙樹ヶ浜にかけての海岸林は、オチバナアナキゾウムシの主要な生息地である。馳出の鼻の海岸は、ナカグロケシツブゾウムシのタイプ産地であり、確実な産地は全国でもここだけである。</p> <p>この地域には自然海岸が多く残っており、人為的攪乱も少ないため、沿岸性の魚類が多く見られる。基本的に間隙の多い磯海岸であるため、間隙性のハゼ科魚類が非常に多く見られる。沿岸域には、小河川がいくつも流入して小さく浅い湾を形成するため、藻場やアマモ場が点在し、多様な魚類の幼魚にとって重要な成育場となっている。</p> <p>広川町の西広海岸は、県内で最も広大な前浜干潟を擁する海岸である。同干潟にはムラサキガイ、マテガイ、ウミニナ、イボウミニナ、コゲツノブエの他、ツバサゴカイ、オフェリアゴカイ、テナガツノヤドカリといったベントス種の生息が見られる。干潟周囲にある転石海岸には、マメアカイソガニも数多く生息している。</p> <p>特に貝類においては、江上川の河口域において、腹足類 31 種（タケノコカワニナ、イボウミニナ等）、二枚貝類 17 種（ムラサキガイ等）の生息が記録されている。</p> <p>鳥類では、日ノ御埼周辺はタカ渡りコースの一つとなっており、春と秋に多数のタカ類が通過する。他に、小鳥類の中継地にもなっており、多数が通過する。なお、鹿尾菜島や白崎周辺は、ウミネコの集団繁殖地となっており、学術的に重要である。</p> <p>煙樹海岸は植栽によるものであるが、クロマツ、アカマツの森林で、幅約 500 m、延長約 6 km に及んでおり、近畿最大の防潮林である。周辺にはタイキンギク、ノアサガオ、キキョウラン、イワタイゲキ、オオハマグルマ、アゼトウナ、キノクニシオギク等、多くの海岸性植物の生育が見られる。阿尾湿地にはアイアシ群落が見られ、ウラギクの生育も確認されている。</p> <p>【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（竹中利明）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場績）、貝類（湊 宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	有田市 湯浅町 広川町 由良町 日高町 美浜町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
13	日高川流域	河川 河川敷 湿地 里山 森林 農地 干潟 河口域	<p>日高川は、護摩壇山系から果無山脈が源流域である。流域は広く、奈良県十津川村から田辺市・日高川町・日高町にまたがり、御坊市で熊野灘に注ぐ。和歌山県内を流れる河川では最も長く、複雑に蛇行し、支流となる河川数が多い。</p> <p>源流部の森林は県自然環境保全地域、国定公園特別保護地区として保護されている。中流域の矢筈岳は、ホンシャクナゲの群生地として知られる。河口域にはハマボウやヨシの群落が広がり、ウラギクの生育も見られる。</p> <p>哺乳類では、流域の森林内にツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。</p> <p>鳥類では、本地域にはカモ類が多く渡来し、越冬する。ナベヅルが渡来したときには、中州がねぐらになっており、ナベヅルの越冬に重要な役割を果たしている。なお、ナベヅルは和田不毛（美浜町）、日高町高家、御坊市塩屋町の農耕地を餌場としている。</p> <p>爬虫類・両生類では、日高川の上流域にマホロバサンショウウオ等が生息し、中・下流部にカジカガエル、ニホンイシガメ、里山周辺にセトウチサンショウウオやヤマアカガエルが生息する。</p> <p>魚類では、淡水域にダムが建設されて外来魚も見られるが、支流や源流は比較的良好な状態が保たれ、サケ科魚類の希少な在来集団が残っている。</p> <p>河口は王子川と西川が合流し、塩性湿地を豊富に残した景観的にも貴重な干潟海岸が広がり、国の重要湿地に選定されている。当該干潟は、ハゼ科やサケ科、カジカ科の希少な魚類はもちろん、水産魚種の重要な生息地や成育場となっている。塩性湿地内にはシオマネキ、ハクセンシオマネキ、クシテガニ、ミナミアシハラガニといったカニ類の他に、県内では他に記録の少ないカワアイ、ナラビオカミミガイ、クリイロコミミガイといった巻貝も生息している。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）】</p>	御坊市 美浜町 日高川町 日高町 田辺市
番号	名称	主な生態系	概要	市町村
14	切目川河口域	河川 湿地 礫浜 干潟 河口域	<p>切目川の河口域には南に延びる砂州及び中州が形成されている。砂州は、切目川が運搬してきた砂礫が沿岸流によって寄せ集められた地形である。中州は宅地化している。</p> <p>本地域は、河口に形成された砂州によってやや閉塞気味であるが、その内側にはウナギ類やハゼ科魚類が生息している。また、砂浜部では淡水の染み出しが見られ、クサフグ等、沿岸性魚類の産卵場や採餌場として利用されている。</p> <p>更に、河口域の護岸付近に自生するハマボウ群落は貴重である。この群落は、伐採後に再生してできた二次林である。その群落下の干潟には、シオマネキやハクセンシオマネキの生息が見られる。</p> <p>【魚類（平嶋健太郎）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	印南町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
15	御坊市・日高郡・田辺市のため池群	湿地 里山	<p>本地域のため池群は、主として農作業のために造られた人為的環境であり、攪乱の起こりやすい水域であるが、ミナミメダカ東瀬戸内集団等の魚類が生息している。</p> <p>また、この地域では、爬虫類では、ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポンが、両生類では、ニホンイモリ、トノサマガエル、ツチガエルが見られ、池の浅い場所では、セトウチサンショウウオやニホンヒキガエルが産卵する。一方で、そのほとんどの池には外来種であるウシガエルとミシシippiaアカミミガメが定着している。</p> <p>植物では、多くの水生植物の重要な生育地である。国の重要湿地に選定されているが、近年、県内のため池は全体的に環境が悪化しており、水草も激減している。ヒシ、スイレン類、外来水草等の繁茂による影響も懸念される。</p> <p>【爬虫類・両生類（玉井清夫）、魚類（平嶋健太郎）、植物（北野一夫・内藤麻子）】</p>	御坊市 日高町 日高川町 印南町 みなべ町 田辺市
16	ひき岩群	里山	<p>本地域の地形は、付近に分布する第三紀中新世の田辺層群に見られる侵食地形である。北西—南東の走向を持つ南傾斜の砂岩泥岩互層が、その硬軟の差による侵食を受け、東西方向から見ると鋸歯状の地形ができた。砂岩層の形が天空を仰ぐカエルの姿に似ており、ヒキガエルの群れに例えられることから、「ひき岩群」と呼ばれる。</p> <p>この地域は、吉野熊野国立公園の陸域に属し、東西 1.5 km、南北 1 km にわたり、標高 100 m 程の岩山群が並ぶ。市街地に近く、古くからハイキング等によく利用されている。かつて南方熊楠が、今では希少な植物を数多く採集しているところである。</p> <p>植物では、ネズミサシ、アカマツ、ヒカゲツツジ、イブキシモツケといった岩角地に生える樹木の他、コモウセンゴケ等が生育している。また、この地域一帯は、アカマツやタイミンタチバナ等の疎林であるが、一部にコジイやクロバイ等の照葉樹も見られる。</p> <p>爬虫類・両生類では、ニホンイシガメやニホンスッポンが生息する他、セトウチサンショウウオ、ニホンイモリ、ヤマアカガエル、タゴガエルが生息している。</p> <p>更に菌類では、ヌメリアシナガイグチの発生が確認されている。</p> <p>【爬虫類・両生類（弓場武夫）、菌類（菌類専門部会）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	田辺市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
17	田辺湾周辺	海岸島嶼砂浜干潟湿地森林	<p>トラフ型の大地震の際には、田辺と新宮を結ぶ線をほぼヒンジラインとして南側が隆起、その値は串本にかけて大きく、田辺湾付近の隆起量は小さい。大地震の後は、隆起量を下回る程度に沈降している。</p> <p>みなべから芳養、天神崎にかけての海岸地域には、新生代新第三紀中新世の田辺層群下部層（朝来累層）が、新庄から瀬戸、梶原にかけては、田辺層群の上部層（白浜累層）が分布する。また臨海の西では、田辺層群を不整合に覆う塔島礫岩層が波食棚をつくる。神島、畠島等、湾内の島は、白浜累層の地層からなるが、元島は朝来累層の地層である。なお、白浜累層が分布する鳥ノ巣半島西側の泥岩岩脈及び江津良のリップルマークは、国の天然記念物に指定されている。</p> <p>本地域は、吉野熊野国立公園内にあり、田辺湾は西に開いた湾で、湾内の海岸地形及び海底地形は非常に複雑である。湾の奥には多くの枝湾があり、生物の生息には適した環境となっている。田辺湾の前を黒潮の枝流が北流し、この地域は熱帯・亜熱帯系の生物相が豊富である。</p> <p>自然豊かな場所としては、番所崎、畠島、神島（国の天然記念物）、鳥ノ巣、天神崎、元島等がある。天神崎は田辺湾の一角で、海岸林と周辺の広い磯からなる。海岸林（照葉樹林）は里山であるが、市民がナショナル・トラスト運動で保全を進めている。なお、天神崎は、ナショナル・トラスト運動の発祥の地である。</p> <p>この地域は海の生態系、陸域の生態系ともに、非常に優れていて、しかも、残存する海岸林が海岸（磯）や海洋の自然維持に大きな役割を果たしている。</p> <p>また、天神崎と白浜半島に囲まれた多島海で、ハカマズラやキノクニスゲといった希少な植物の自生地として知られる。田辺市新庄周辺の海岸にはコアマモの藻場が出現し、みなべ町千里の浜にはネコノシタやハマゴウといった海浜植物が群生する。</p> <p>更に、変形菌では南方熊楠が発見したミナカタホコリやアオウツボホコリのタイプ産地になっている。</p> <p>哺乳類では、白浜町の千畳敷海蝕洞が、ユビナガコウモリの近畿地方における最大の繁殖洞とされ、毎年夏に3万頭を超える数の繁殖雌が集まり、出産・育仔が行われている。千畳敷海蝕洞は、近畿地方のユビナガコウモリにとって極めて重要な位置づけであることから、「ユビナガコウモリの繁殖洞」として白浜町指定の天然記念物となっている。</p> <p>鳥類では、この地域にある鹿島や畠島でウチヤマセンニューウが、円月島等でクロサギが繁殖する。なお、森の鼻は、和歌山県有数のシギチドリ類の渡来地である。</p> <p>昆虫類では、みなべ町鹿島がウルシゴキブリとマメクワガタの生息地となっている。神島にはチビクワガタが生息し、マメクワガタとの生息関係が興味深い。また神島には、マルモンタマゾウムシが多産する。</p> <p>天神崎には、海岸林が二次林ながら残っていて、その中の湿地にはハンゲショウ等の湿地性植物群落があり、セトウチサンショウウオが産卵する。広くて平らな磯は亜熱帯・熱帯系の生物相が豊かで、自然観察に最適の場所である。なお、みなべ町千里の浜は、本州では最大のアカウミガメの産卵地であり、和歌山県指定天然記念物となっており、また、国の重要湿地にも選定されている。</p> <p>この地域は水域の多くが市街地に隣接するものの、自然海岸が保護されている地域もあり、沿岸部の状態は良好である。岩礁海岸や砂浜、会津川や芳養川といった河口汽水域等、変化に富むため、アカメやウナギ類、ハゼ科等の希少な魚類を含めて、多くの魚種が生息し、良好な漁場になっている。また黒潮の影響を強く受けるため、ボラ科やヨウジウオ科等の南方系の魚種も見られる。</p> <p>田辺湾内一帯の海岸線は、岩礁、転石、砂浜、干潟と多様な基質を備え、更に外海から内湾奥部までの地形上多様な海岸線を成すことで、多様な海岸生物種が見られる。湾内中央部に位置する畠島には、それらの海岸生物種が集約しており、ここから新種として記録された海岸生物種も数多い。畠島の砂干潟に見られるワダツミギボシムシはその生息数も多く、潮間帯で本種が見られるのは日本の海岸線では他に知られていない。湾口部の海岸からは、ムラサキオカヤドカリ、ミナミスナガニ、カクレイワガニ、タイワンタマキビといった日本本土では稀な南方系の種が記録される。内湾奥部にある内之浦の干潟域には広大な泥質干潟に加え、コアマモが生えた海草帯もあり、底生動物相が豊富である。とりわけ、海草帯で見られる二枚貝のハボウキガイ、シオヤガイ、コゲツノブエ、スジホシムシモドキヤドリガイ、チゴイワガニ、泥干潟部で見られるシオマネキ、カワアイ、マングロープテッポウエビ、タビラクチ等は貴重である。</p> <p>貝類では、ミヤコドリ、カノコガイ、シラギク等、122種の干潟の貝類の記録がある。天神崎に隣接する元島では、ナマコ類やナメクジウオ類等、本県の海岸ではここだけにしか知られていない種もいくつか確認されている。また、田辺湾内の小島神島は、地名を冠した貴重種カシマイボテカニムシとカシマセスジアカムカダのタイプ産地である。なお、南紀白浜～南紀田辺の海岸線は、干潟、藻場、サンゴ礁の湿地タイプを持つ国の重要湿地に選定されている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、菌類（菌類専門部会）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	みなべ町 田辺市 白浜町

生物多様性保全上注目すべき地域

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
18	富田川流域	河川 湿地 里山 森林 干潟 河口域	<p>富田川は果無山脈を源に、中川・鍛冶屋川・内の井川・生馬川・庄川等が合流し、河口部汽水域で高瀬川が出合う。流域は、田辺市（中辺路町・旧大塔村）・上富田町にまたがり、白浜町富田で太平洋に注ぐ。</p> <p>上流域では谷底平野は発達せず両岸に山裾が迫る渓谷であるが、中流域では河岸段丘に平地が現れ、鮎川地区から下流域では流れに沿って狭い平野が続いており、果樹園や水田地が見られる。河口部の南岸は岩崖が迫る地形であるが、北側には延長約2 km、幅約100 mの礫浜が続いており、吉野熊野国立公園の域内である。</p> <p>河口付近には、ハマボウ群落が残存している。かつて、イセウキヤガラが生育していたが、近年発生が確認されていない。また、移入由来のレンリソウが生育している。</p> <p>哺乳類では、流域の森林内にツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。</p> <p>上流域では、ニホンイモリやツチガエル、里山付近では、セトウチサンショウウオ、富田川本流等では、ニホンイシガメやカジカガエルが生息している。更に、河口部から北方向に広がる中大浜では、アカウミガメが産卵する。</p> <p>昆虫類では、上流域でアイヌハンミョウ、下流域でキバナガミズギワゴミムシ等が確認されている。また、砂礫中に生息するミズギワゴミムシ類、ゴマダラチビゲンゴロウ、キボシツブゲンゴロウ、ルイスツブゲンゴロウ等、清流や湧水中に棲むゲンゴロウ類も発見されている。</p> <p>河口では、高瀬川が合流して豊かな汽水域が形成され、アカメやハゼ科等の希少な魚類はもちろん、水産魚種の重要な生息場となっている。淡水域は、支流や源流は比較的良好な状態が保たれ、カジカ科やサケ科等の希少な魚種が残っている。なお、本河川の河口より18 kmは、「オオウナギ生息地」として国の天然記念物に指定されている。</p> <p>富田川は上流にダムを持たない貴重な河川であり、水質も良好で、多様なエビ・カニ類の生息が見られる。中流域の支流からは、紀伊半島で他に記録のない淡水紅藻のカワモズク属2種が記録されている。本河川は、紀伊半島南部に局限して分布するエビヤドリミミズの分布限界河川でもある。汽水域には、カワスナガニ、アリアケモドキといった低塩分を好む貴重種が多産する。また、シオマネキの記録もある。</p> <p>貝類では、河口付近に汽水性のフネアマガイ、タケノコカワニナ、ヤマトシジミ等が生息している。また、谷奥では陸産貝類のミツクリギセルが比較的多く生息している他、ホラアナミジンナナのタイプ産地であることでも著名である。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）】</p>	田辺市 上富田町 白浜町
19	笠甫の湿地植生	湿地 海岸	<p>この地域では、海岸に近い谷川沿いに開かれた水田地が放棄されて湿地帯となっている。この湿地帯の長さは約600 m、幅は広い部分で約100 mである。周囲は海から続く標高100 m程の丘陵地に囲まれて、湿地内を細流が下る。かつての水田はこの細流が水源で、今も湿地を潤し続け、湿地の植生が維持されており、県内において産地が限られるヒメカンガレイの生育が見られる。</p> <p>地域内の小河川ではツチガエルが見られ、湿地内部の開けた場所ではヤマアカガエルやニホンヒキガエルの産卵場所となっている。</p> <p>入り組んだ沿岸の奥にある湿地では、近年陸地化が進む傾向にあるが、ミナミメダカ東瀬戸内集団をはじめ、通し回遊魚の陸封個体群や黒潮の影響を受けた南方系の魚種が見られる。</p> <p>【両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、植物（北野一夫・内藤麻子）】</p>	白浜町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
20	果無山脈	森林 自然林 河川	<p>果無山脈は、四万十付加体の音無川付加シークエンスが分布する。第三紀漸新世から前期始新世に堆積した本シークエンスは、下部の泥岩や赤色・緑色泥岩、緑色岩類からなる瓜谷層、及び上部の砂岩泥岩互層や砂岩、礫岩からなる羽六層に区分される。瓜谷層は、笠塔山の北側において、日高川帯との境界をなす栃谷スラストの屈曲部、及び福定の北でわずかに露出する。同山脈は、和歌山県のほぼ中央部にあり、東西に長くのびる山脈で、奈良県と和歌山県の境界となっている。</p> <p>本地域では、和田ノ森、安堵山、冷水山といった標高1,000 mを超える山が和歌山県と奈良県の県境付近に東西に連なっており、稜線付近にブナやミズナラといった落葉広葉樹林が残存している。谷沿いにはモミ、ツガ等の針葉樹林が見られる。特に笠塔山、水上には面的にまとまった自然林が良好な状態で保存されている。また、水上の原生林にはトガサワラの大木が混交している。</p> <p>菌類では、コウボウフデ、バカマツタケが、北部でも発生しているが、南部では果無山脈周辺が発生地である。また、ニセマツタケはこの周辺で発生が見られる。</p> <p>昆虫類では、キリシマミドリシジミやヒサマツミドリシジミ、ルリクワガタ、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、オオダイオオナガゴミムシ、ルイスヒゲボソゾウムシ等、多くのレッドデータブック掲載種が記録されており、その他、ニセコリクワガタ、オオトラカミキリ、ハラダチョッキリの色彩変異個体群が知られている。</p> <p>陸産貝類では、マルクチコギセル、コシボソギセル、カギヒダギセル、ケハダビロウドマイマイ等の希少種が生息している。</p> <p>哺乳類では、日置川と三越川の上流域にカワネズミ、ツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。</p> <p>鳥類では、尾根筋でクマタカやオオアカゲラ、コリリ等が、沢筋でヤイロチョウやアカショウビンが生息する等、希少種が多く見られる。</p> <p>爬虫類・両生類では、この地域に、マホロバサンショウウオやハコネサンショウウオ等が生息する。水がたまる窪地ではニホンイモリやニホンヒキガエルが産卵し、川の上流域ではナガレヒキガエル、カジカガエルが生息する。下流域ではニホンイシガメが棲み、広く浅い止水域ではヤマアカガエルが産卵する。</p> <p>また、この地域はいくつかの水域の源流を持つため、サケ科魚類やナガレホトケドジョウ等の上流域に見られる希少な魚種の生息地となっている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	田辺市
番号	名称	主な生態系	概要	市町村
21	要害森山	森林	<p>三越峠から要害森山周辺は大半がスギ・ヒノキの人工林であるが、斜面にトガサワラが密度高く生育し貴重である。</p> <p>【植物（内藤麻子）】</p>	田辺市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
22	大塔山周辺	森林 自然林 河川	<p>大塔山及び法師山を源流とする安川は、修験の滝等、支谷の滝や本流の雨乞滝等、多数の滝を作りながら、法師山の北側を西流し、打越で日置川に合流する溪谷美あふれる支流である。大塔川は、大塔山や野竹法師を源流にして大塔山の北側を北流し、請川で熊野川に合流する。その間、本流の落合滝のみならず、大杉滝、鮎返滝、カンタロウ滝等、多数の支谷の滝を形成している。</p> <p>大塔山や法師山周辺は、四万十付加体牟婁付加シークエンスを構成する中期始新世後半から後期始新世の安川層及び打越層が分布し、西に傾斜し北東―南西方向に延びる合川複向斜と北西―南東方向に延びる打越背斜の交点に当たる、褶曲構造の複雑な地域である。野竹法師の北には、畝畑スラストを挟んでその北側には、牟婁付加シークエンスを構成する中期始新世の武住層及び大瀬層が近露スラストまでの間に分布する。</p> <p>本地域には北ないし北東―南ないし南西方向の流紋岩（花崗斑岩）脈や凝灰岩脈が多数見られる他、黒蔵谷の八丁瀬変質帯もあり、新第三紀中期中新世の熊野酸性火成岩類の火成活動に伴う岩脈や変質帯が分布する。</p> <p>この地域は、紀南の最も奥地で、大塔山を中心として法師山、百間山等、峻険な山々が並ぶ山系であり、自然植生が残っている場所も多い。その中で、黒蔵谷については林野庁が「森林生物遺伝資源保存林」とし、この一帯は県立自然公園になっている。</p> <p>大塔山系には各種の貴重な動植物が多く見られ、自然環境として特筆すべき地域である。</p> <p>周辺の法師山や足郷山も含めた大塔山系の一大山塊には、本県南部を代表する森林植生が残り、位置的に次の5つに大別される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①山頂北側斜面のブナ群落 ②中小屋谷のツガ群落 ③前ノ川流域のウラジロガシ・アカガシ群落 ④古座川源流域のウラジロガシ群落 ⑤熊野川町奥山谷のブナ・アカガシ群落 <p>山頂部分には森林再生を目的としたシカ食害防護柵が設置され、植生調査が継続的に実施されている。</p> <p>この地域の山系からは46種の陸産貝類が記録されている。例えば、この地域の本州最南端のブナ林の林床からはニクイロギセル、マルクチコギセル、シロバリギセル等が記録されている。また、大塔山系の富里地区からはカギヒダギセル、ミツクリギセル、キイオオベソマイマイ等3種がタイプ産地になっていることも特徴である。なお、ヤマキザコは大塔山系が本県で唯一の産地となっており、特筆に値する。</p> <p>菌類では、ブナ林の倒木に発生するツキヨタケの県内での南限地にあたる。</p> <p>哺乳類では、大塔川支流の黒蔵谷上流域において、クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、テングコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ等の生息が確認されている他、ヤチネズミ、ツキノワグマ、ヤマネ、ニホンリス、ニホンカモシカ等の生息も確認されている。</p> <p>鳥類では、この地域には、クマタカやアカショウビン等の希少な鳥類が多く生息する。なお、クマタカは、和歌山県内有数の生息密度である。</p> <p>昆虫類では、オオトウメクラチビゴミムシやオオトウヒメコバナネガハネカクシ、オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ、オオトウザイノキクイムシ等、大塔山に因んだ名の付く昆虫類の他、ナンキシマアツバ、ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種、マトバチビマメコメツキ、ナンキオチバメダカハネカクシ等、大塔山系をタイプ産地とする昆虫類も多い。レッドデータブック掲載種としては、ナンキセダカコブヤハズカミキリ、タマヌキオニゾウムシ、ウスグロボタル、トラハナムグリ、キンスジコガネ、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、キリシマミドリシジミ等、数多く生息している。</p> <p>両生類では、マホロバサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ナガレヒキガエル等が生息し、爬虫類ではヘビ類の多くの種が生息する。</p> <p>魚類では、この地域がいくつかの水域の源流を持つことで、サケ科魚類やナガレホトケドジョウ等の上流域に生息する希少な種の生息地となっているが、土砂による谷の消失などの影響が懸念される。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（水野泰邦・内藤麻子）・地形・地質（吉松敏隆）】</p>	田辺市 古座川町 新宮市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
23	大森山周辺	森林 河川	<p>大森山周辺は、白浜町と古座川町にまたがる山系で、標高はあまり高くない。古座川町平井には北海道大学和歌山研究林がある。林内はよく整備され、スギやヒノキの大木が林立し、蘚苔類が繁茂した谷地が多い。</p> <p>本地域では、大半が人工林であるが、一部にアカガシ、ウラジロガシ林が残る。大森山の稜線には、自生とみられるコウヤマキが生育している。</p> <p>哺乳類では、森林内にヒメヒミズ、ヤチネズミが生息していることが特徴的である。研究林および周辺地域には、ノレンコウモリ、テングコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ツキノワグマ、ニホンモンガ、カワネズミ、ヤマネ、ニホンリス、ニホンカモシカ等の生息が確認されている。</p> <p>この地域は大塔山系と昆虫相が類似しており、キリシマミドリシジミ、ウスグロボタル等、多くの共通種が生息している。また、チクゼンピロウドコガネ、クロアシヒゲナガヒラタミツギリゾウムシ、タケウチホソハナカミキリ、クロソソホソハナカミキリ、ナンキセダカコブヤハズカミキリ、ミヤマナカボソタママシ、ムネアカツヤケシコメツキ等が生息している。</p> <p>爬虫類・両生類では、源流域にマホロバサンショウウオ等が生息し、中流ではニホンイモリ、ナガレヒキガエル、カジカガエルが棲み、下流の農耕地周辺ではニホンイシガメ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエルが生息している。</p> <p>魚類では、この地域がいくつかの水域の源流を持つことで、サケ科魚類やナガレホトケドジョウ等の上流域に生息する希少な種の生息地となっている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、植物（内藤麻子）】</p>	白浜町 古座川町
24	日置川流域	河川 森林 湿地 里山 干潟 河口域	<p>日置川は特に上流部で流域面積が大きい。流域は、奈良県十津川村・田辺市（中辺路町・旧大塔村）・白浜町・すさみ町にまたがる。果無山脈や大塔山系を源に、中流部に位置する合川ダム（殿山ダム）では熊野川・前ノ川・將軍川が合流し、蛇行を繰り返しながら白浜町で太平洋に注ぐ。中流部以降は河川の傾斜は緩くなり、蛇行の内側の平地に集落や農耕地が造られ、河原が発達している。</p> <p>本地域では、大半が人工林であるが、百間山溪谷等の谷沿いには、トチノキが点在している。</p> <p>哺乳類では、源流域にヤチネズミが生息し、本種の分布西限となっている。谷筋にはカワネズミが、流域の森林内にはツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。</p> <p>爬虫類・両生類では、上流域にマホロバサンショウウオ、ハコネサンショウウオ等が、中流域以降や里山一帯にニホンスッポン、ニホンヒキガエル、カジカガエル等が生息している。</p> <p>貝類では、中流域に、コシボソギセル、ミツクリギセル、ヒラマキピロウドマイマイ等、他地域では少ない種類の陸産貝類が観察できる。</p> <p>魚類では、淡水域にスナヤツメ科やカジカ科魚類、ナガレホトケドジョウ等が見られる。近年は山林の荒廃が進み、流出した土砂が支流や源流の谷を埋めており、淡水魚への影響が懸念される。</p> <p>河口には広い汽水域があり、ハゼ科やカジカ科等の希少な魚類が数多く生息している。また、河口域には礫が中心の干潟域が広がるが、そこにはカワスナガニが極めて数多く生息している。なお、河口部のヨシ原周辺は、ヨドシロヘリハンミョウの生息地として、県の天然記念物に指定されている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、貝類（湊宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）】</p>	田辺市 白浜町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
25	琴の滝周辺	森林 河川 里山	<p>本地域には、四万十付加体の牟婁付加シークエンスを構成する中期始新世末期ないし前期中新世の佐本川層が分布する。本層は、砂岩泥岩互層や砂岩、礫岩からなる。また、滝の南側の周参見背斜の軸部に、砂岩泥岩互層や泥岩からなる小節川層が露出する。この地域周辺は、熱水変質を受けて岩石が硬化や白色化し、琴の滝変質帯と呼ばれている。複雑な地形と豊富な種類の植物が観察できる広瀬渓谷には、1年を通して豊富な水量をたたえる周参見川支流がある。琴の滝は、周参見川支流の広瀬渓谷に位置する名瀑である。</p> <p>この地域には、シイ・カシ林にホルトノキ、ミミズバイ、コバンモチ、ヤマモガシといった常緑樹、カギカズラ等のつる植物が見られる。</p> <p>爬虫類・両生類では、この地域の河川にニホンイモリやカジカガエルが生息しており、支流周辺では繁殖行動も観察できる。渓谷周辺にはマホロバサンショウウオやニホンヒキガエルが生息する。ヘビ類も多く生息し、タカチホヘビ、シロマダラ、ジムグリ等が観察できる。</p> <p>一方、魚類では、放流等の人為的攪乱によってサケ科の在来個体群は消失し、他の希少な魚種の生息も脅かされている。</p> <p>昆虫類では、サツマニシキ、ウスグロアシプトゾウムシ、ミスジツブタマムシ、キュウシュウチビトラカミキリ、キンモンナガタマムシ等が確認され、琉球列島との共通種が非常に多い地域である。ミミズバイサルゾウムシ、スサミオビモンヒョウタンゾウムシ、スサミコバナナガハネカクシ等、タイプ産地となっている種もいくつか知られている。また、オオツノクモゾウムシは四国・九州との共通種で、本州ではこの地域にしか生息していない。レッドデータブック掲載種としては、ウスグロボタル、ミツギリゾウムシ、ネジロツブゾウムシ等が生息している。</p> <p>更に、この地域では、陸産貝類の多様性が高く、県内を代表するヒラマキビロウドマイマイ、コハゲギセル、ミツクリギセル等が記録された。</p> <p>哺乳類では、モモジロコウモリの記録がある。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（平井厚志）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	すさみ町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
26	すさみ町～串本町西岸域	海岸砂浜島嶼河川里山	<p>枯木灘海岸は、隆起海岸のため、基本的には岩石海岸で、海岸線は断崖を形成したり、大小の岩塊が点在したりする所が多い。</p> <p>潮岬は、串本側の陸域と砂州で接続した、トンボロ（陸繋島）である。</p> <p>稲積島の北側の松根－平井スラストを境として、この地域には、周参見から南へ順に四万十付加体の牟婁シークエンスを構成する中期始新世ないし前期中新世の周参見構造ユニットが分布する。本構造ユニットは、砂岩泥岩互層や砂岩、礫岩からなる佐本川層、及び泥岩や砂岩泥岩互層、砂岩、礫岩、岩礫泥岩からなる田並川層に区分される。</p> <p>田子周辺の波食棚には、海底土石流堆積物と考えられている後期漸新世ないし前期中新世の枯木灘層（サラシ首層）が分布する。</p> <p>田の崎では、田並川層を前弧海盆堆積体の熊野層群下里累層が不整合で覆い、ここから植松付近までは同じ地層が続く。下里累層は、砂岩泥岩互層や砂岩からなり、凝灰岩を挟む。</p> <p>本地域は、吉野熊野国立公園内の海岸で、複雑な海岸線は海と山が近く、海岸沿いに湿地や池が点在する。</p> <p>枯木灘に面した海岸域には、いくつかの島嶼が見られ、特に稲積島、江須崎は暖地性植物の貴重な生育地であることから、国指定天然記念物になっている。本州最南端に位置する潮岬には、望楼の芝と呼ばれるシバ群落が広がっている。このエリアでは芝生管理を目的とした芝焼きが行われており、ワレモコウ等、草原性植物の貴重な生育地となっている。</p> <p>菌類では、シイ林に発生するシイノトモシビタケが1951年に八丈島で発見され、長い間八丈島特産種とされていたが、1995年に本種がすさみ町周辺で初めて確認された。その後、九州、四国、三重県、兵庫県等でも確認されている。</p> <p>爬虫類・両生類では、砂浜や海岸のすぐ近くには湿地や池があり、ニホンイモリやニホンヒキガエルが繁殖する。海岸に流れ込む河川周辺の水田ではトノサマガエルが生息、繁殖している。沿岸域には周年を通してアオウミガメが生息し、海藻を主食とする本種の重要な餌場となっている。</p> <p>鳥類では、黒島周辺において、ウチヤマセンニューウやアマツバメが繁殖する。</p> <p>昆虫類では、黒潮の影響を強く受け、琉球列島から海流により運ばれてきた種が多く発見されている。マメクワガタ、アヤモンチビカミキリ、アヤムナビロタムシ、アヤムネスジタムシ、ツヤケシヒゲナガコバナカミキリ、マダラツツヒゲナガゾウムシ、モモビロヤサクチカクシゾウムシ等、いずれも枯れ木に依存する種である。また、レッドデータブック掲載種のタイワンクツワムシやウルシゴキブリ等も海流により運ばれてきた種であろう。</p> <p>陸産貝類では、すさみ町江住の江須崎の海岸地域は、海浜性の微小種・ヤマモトゴマオカチグサのタイプ産地になっている。更に本種は、同町里野の三崎からの潮間帯における飛沫帯上部のハマオモト、ツワブキ、ハマアザミの茂る湿り気のある生息環境から確認された。串本町田子の双島からは、日本初記録種としてソウジマミジンマイマイが記録されていることも特筆すべきである。</p> <p>また、すさみ町江須崎周辺の海岸は黒潮の強い影響下にある一方、風浪からよく守られた岩礁、転石、砂浜を備えており、海岸生物相は豊富で、本県の海岸ではここしか知られていない種も魚類、棘皮動物、ホシムシ類で確認されている。</p> <p>潮岬西岸の植松海岸は、広大な砂浜に岩礁が混じる海岸で、砂浜の水際にはキンセンガニやフジノハナガイが普通に見られ、潮上帯付近には、ツノメガニ、ナンヨウスナガニ等南方系のスナガニ類の巣穴が多数見られ、オカヤドカリ類の這い跡も見られる。なお、串本町西岸一帯はサンゴ礁を擁する国の重要湿地に選定されている。</p> <p>更に、この地域は黒潮の影響を強く受ける岩礫性海岸が続き、小河川の流入も見られるため、ボラ科やヨウジウオ科等の南方由来の多様な通し回遊魚が見られる。また、造礁性サンゴ群体周辺には熱帯性の魚種も多く、近年は越冬の報告も多い。なお、串本沿岸海域は、ラムサール条約湿地に登録されている。</p> <p>【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（平井厚志）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場績）、貝類（湊 宏）、菌類（菌類専門部会）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	すさみ町 串本町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
27	紀伊大島周辺	海岸島嶼森林	<p>紀伊大島は、通夜島、茗荷島を含め、新第三紀中新世の火成活動で形成された潮岬火成複合岩体の流紋岩及び火砕岩からなり、北端部にはわずかに熊野層群敷屋累層の泥岩及び砂岩泥岩互層が分布する。流紋岩には節理が発達し、海食洞のような切り立った景観をなす。</p> <p>紀伊大島は面積およそ 9.68 km²、周囲約 28 km、県内最大の島嶼である。沿岸部全域と陸域の一部が吉野熊野国立公園に属している。島内最高地は大森山 (171 m) で、一帯はスダジイ優占の照葉樹に被われている。島の西側や大森山北側方面は急傾斜地であるが、南部東部方面はなだらかである。谷川沿いの低地では、水田が点在している。なお、串本沿岸海域はラムサール条約湿地に登録されるとともに、国の重要湿地に選定されている。</p> <p>この地域の島の北東部では、スダジイが優占する森林が発達している。他に、イスノキ、タブノキ、モチノキ等が高木層を占める。本島の南西側にある通夜島にも発達したスダジイ林が見られる。スダジイの樹幹にはシラタマカズラが着生、林床にはアオクマタケランが自生している。また、大島港付近や島の西端には、紀伊半島唯一のハドノキ自生地がある。海岸の崖地にはビャクシンが自生し、岩隙地ではキノクニシオギクやタマムラサキが見られる。</p> <p>菌類では、シイノトモシビタケが 1995 年に八丈島以外の国内記録として和歌山県すさみ町周辺で発見されたことから、県内南部のシイ林を調査したところ、紀伊大島周辺でも発生が確認された。</p> <p>昆虫類では、本州最南端の温暖な気候により、マメクワガタ、ケアカサルゾウムシ、モモビロヤサクチカクシゾウムシ、イチハシチビサビキコリ、ニホンホオビロコメツキモドキ、セスジケブカサルハムシ、エノキミツギリゾウムシ等、多くの南方系の種が生息している。</p> <p>近年は耕作放棄地となってしまった場所が見られるが、このような水湿地ではトノサマガエルやニホンヒキガエルが、また、谷川ではニホンイモリやニホンイシガメが生息している。</p> <p>この地域は、黒潮の影響を強く受ける本州最南端の島嶼的環境で、岩礫性海岸に複雑な海流が影響して南方由来の魚種以外にも多様な魚種がみられる。例えば、水深 100 m 近い海域が隣接しており、漸深海性や冷水性の種も遇来する。</p> <p>陸産貝類は、紀伊大島が 1859～1861 年の英国船 Acteon 号によって調査されており、41 種が記録されている。このうち、キイツムガタギセル、ジェイギセル、シロバリギセル等の 5 種が、当地をタイプ産地としている。</p> <p>鳥類では、この地域内にある白島がアマツバメの集団繁殖地になっている。</p> <p>【鳥類 (沼野正博)、爬虫類・両生類 (弓場武夫)、魚類 (平嶋健太郎)、昆虫類 (的場績)、貝類 (湊 宏)、菌類 (菌類専門部会)、植物 (瀧野秀二)、地形・地質 (吉松敏隆)】</p>	串本町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
28	申本町東岸域～下里・太地町沿岸及びゆかし潟	海岸島嶼湿地 干潟 里山河川 汽水湖	<p>紀伊半島の南東部にあり、熊野灘に面したこの地域一帯は、海岸線に沿って小河川、湿地、池が点在し、海岸域は吉野熊野国立公園になっている。</p> <p>下里は、太田川の下流部にあり、庄等は環流丘陵をなし、旧河床部は水田に利用されている。また、太田川河口には、小規模な砂州が形成されている。湯川のゆかし潟は、ラグーン（潟湖）で、河口域の堆積物による閉塞によるが、現在も汽水性を保持しており、太田川河口とともに国の重要湿地に選定されている。</p> <p>申本から田原にかけての海岸には、泥岩や砂岩泥岩互層からなる熊野層群の敷屋累層が露出する。</p> <p>田原から太地の燈明崎にかけての海岸には、砂岩泥岩互層や砂岩、凝灰岩からなり、敷屋累層の下位にあたる下里累層が露出する。また、森浦湾岸には、敷屋累層が露出する。</p> <p>浦神には、流紋岩（花崗斑岩）及び流紋岩質凝灰岩からなる古座川弧状岩脈の西端部が露出し、後者の岩石はいわゆる虫喰い岩になる場合が多い。伴待瀬付近の下里累層中に、泥ダイヤビルが認められる。</p> <p>植物では、潮岬でカゲロウランとメジロホウズキの生育が確認されている。古座川の九龍島は、かつて見られたイヌマキ、タブノキ、スダジイ等の自然林が台風の強風やカワウの糞害等で多くの高木が被害を受けている。林床植物では、アオノクマタケラン、キノクニスゲ、ハチジョウシダ等が見られる。浦神半島の南斜面では、ウバメガシ林が成立しており、海岸近くでシタキソウの他、ホウライカズラ等が見られる。田原から浦神にかけての湿地は陸地化が進み、テツホシダのみが繁茂している。また、太田川河口、江川周辺にはハマボウ群落が発達している。池の谷湿地では、周辺住民によって定期的に草刈りが行われているため、希少植物がごく狭い範囲に生育している貴重な場所である。天満海岸の干潟では、シバナやウシオツメクサが生育している。太地町内では、昭和30年代に植林されたスギ林の林床でリュウビンタイが繁殖し、大きな群落を形成している。そのうちの1ヶ所では、ヘゴやクサマルハチ、ヒロハノコギリシダの生育も確認されている。燈明崎から梶取崎にかけての半島の周囲は、スダジイ林を主とする照葉樹林で、モチノキやヤブニッケイ、イスノキ等の常緑樹の他、ハマセンダンも随所で見られる。シマサルナシが樹冠まで達しているものも見られる。ゆかし潟に続く塩沼湿地には、ハマボウ、ハマナツメの他、ハマサジ、フクド等の塩性湿地植物群落が見られる。ただ、かつて確認されたシバナは、ここ数年、見られなくなった。</p> <p>鳥類では、申本町内の海岸や九龍島などでウチヤマセンニュウが繁殖し、橋杭岩などではアマツバメが繁殖する。</p> <p>昆虫類では、九龍島のマメクワガタを始め、ニホンホホビロコメツキモドキ、カグヤヒメキクイゾウムシ、モモビロヤサクチカクシゾウムシ、アヤモンチビカミキリ、ベーツヒラタカミキリ等、多くの南方系種が生息している。更に、田原の湿地は、オオコオイムシ、キベリクロヒメゲンゴロウ、ガムシ、コガムシ等、多くの水生昆虫の生息地であり、全国的にも希少種であるハッカヒメゾウムシの生息地でもある。加えて、荒船海岸ではイチハシチビサビキコリヤムネモンヤツボシカミキリ等が記録されている。</p> <p>海岸線に点在する砂浜では、アカウミガメの産卵が確認されており、市民による調査活動も長年にわたり継続されている。また、田原湿地や周辺の水田では、ニホンイシガメ、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ツチガエルが生息し、ヘビ類の種類も多い。</p> <p>この地域は、熊野灘の冷水塊と黒潮枝流の影響を受ける海岸が続き、小河川の流入も見られるため、多様な魚種が見られる。特に、ゆかし潟は温泉が自噴し、南方由来の小型ハゼ科魚類やウナギ科魚類を中心とした独自の生態系を示す。太田川の河口域は、干潟を含め広大な汽水域を持ち、ハゼ科やカジカ科魚類が多く生息するが、近年災害対策工事による河川環境の改変が目立つ。荒船海岸と玉ノ浦を持つ浦神半島は、多様な生物を育む地域として重要であるが、近年の開発の影響が懸念される。淡水域では、ミナミメダカ東日本集団が生息しており、集団の境界となる重要な地域である。</p> <p>また、九龍島では、ノミガイ、キイゴマガイ、アナナシマイマイ、ミジンマイマイ等の貝類が記録されている。田原の湿地では、ナガオカモノアラガイが生息しているが、年々陸化の傾向が強く、個体数は多くはない。</p> <p>更に、ゆかし潟では、ミナミアシハラガニ、ウモレベンケイガニ、フジテガニといったカニ類やカワタレカワザンショウ、イガカノコ、ウミニナ、ホソウミニナ、フトヘナタリ、トガリウシオガイ等の貝類も豊富である。転石下からはヒナユキスズメ、ミヤコドリ、カワナガニ等が見つかる。太地町の森浦湾には礫を伴った泥質の干潟が広がるが、そこには県内では記録が少ないムツハリアケガニが見られ、他にはチゴイワガニ、コゲツノブエ、ウミニナ等の希少ベントスが豊富である。</p> <p>【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（平井厚志）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場績）、貝類（湊 宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	申本町 那智勝浦町 太地町

生物多様性保全上注目すべき地域

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
29	古座川流域	河川 森林 里山 湿地	<p>古座川本流の源流は、標高 1,121.8 m の大塔山で、張尾の滝や植魚の滝等、支谷の滝も含めて多くの滝を形成しながら穿入蛇行し、途中の七川ダムを経て三尾川まで南流、そこからほぼ東に流下して熊野灘に注ぐ。支流の小川は、大倉畑山 (774.5 m) の南の尾根沿いにある標高 771.3 m の山を源流とし、激しく穿入蛇行をしながら南流し、滝の拝では河床にポットホール (罅穴) を形成、川口で本流に合流する。また、支流の比曾原川は、コカシ峠付近を源流とし、蛇行しながらほぼ西流して三尾川で本流に合流する。</p> <p>こうした古座川流域には、牟婁付加シークエンス、及びそれを不整合で覆う前弧海盆堆積体の熊野層群、更に熊野酸性火成岩類の火成活動に関連する古座川弧状岩脈等が分布する。</p> <p>牟婁付加シークエンスの分布域は、相瀬の少し下流から上流側で、佐本川層や田並川層が、更に松根付近から周参見に延びる松根-平井スラストを挟んで安川層や打越層からなる。</p> <p>熊野層群の分布域は、ほぼ小川沿いであり、下里累層や敷屋累層からなる。</p> <p>古座川弧状岩脈は、南側の流紋岩 (花崗斑岩) と北側の流紋岩質凝灰岩からなり、三尾川付近より西では断層として認められる。東方への延長は、古座川の宇津木を経て浦神へと連続する。これらの地層岩石の他、流域には南北性の流紋岩 (石英斑岩) の岩脈が、大塔山の方向に雁行状に見られる。</p> <p>古座川は、大塔山系を始め、紀南の山岳から流れる河川で、多くの支流を擁し大小さまざまな滝があり、巨岩・奇岩も多く、景観としても見事な場所が多い。観光地として、この地域には多くの人々が訪れる。古座川は、1 年を通して豊富な水量をたたえ、熊野灘に流れ込んでおり、流域には自然林も多い。</p> <p>上流部のツブラジイ (コジイ) 林には、樹幹に着生するマメヅタラン、ムギラン、ミヤマムギラン等が見られる。中流部は火成岩の岸壁が多く、クルマギクやウナヅキギボウシ、キイジョウロウホトトギス、キイトラッキョウ、ウチョウラン等の着生が見られる。また、支流の立合川の岸壁でタキユリの自生が確認された。オオママコナはキノクスズカケ植林地の林縁で見られるが、ニホンジカの食害を受けて個体数が減少している。明神の休耕地にあった広大なチョウジソウの群落は、砂利の集積地が谷の入り口から奥へと拡大したことで大きく縮小した。</p> <p>哺乳類では、この地域の谷筋にカワネズミ、森にヒメネズミ、ヤマネ、ツキノワグマ、ニホンカモシカが生息している。また、廃坑等の洞穴ではキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ等が確認されている。</p> <p>支流の小川に「滝の拝」という場所があり、河床の地形が特異である。その周辺等ではニホンイモリやカエル類が観察でき、繁殖も確認されている。周辺の森林・湿地にはニホンヒキガエルも多数生息し、ヘビ類も多くの種類が生息する。流域の水田・湿地・池等やその周辺では、ニホンイシガメ、トノサマガエル、ツチガエル、ヤマアカガエル等が生息する。</p> <p>貝類では、古座川流域は、クロズギセル、ヒラマキピロウドマイマイ、キヌツヤバッコウのタイプ産地であり、紀南地域の那智とともに、陸産貝類の多産地でもある。これらの種は、礫の多いスギ林が主な生息地である。</p> <p>更に、古座川は上流から下流まで比較的濁りの少ない数少ない河川であり、魚類や十脚甲殻類が豊富に生息している。中流域のヌマエビから見つかるエビヤドリミミズや、汽水域から見つかるカワスナガニ、アリアケモドキは貴重である。</p> <p>河口には広い感潮域があり、サケ科やアユ、カジカ科、ハゼ科等の通し回遊魚が非常に多く、豊かな生物相が見られるが、近年の開発の影響が懸念される。ユウスイミミズハゼやカマキリ (アユカケ) 等、希少な魚類も数多く生息している。淡水域では、本流にダムが建設されて外来魚も多く見られるが、支流では比較的状态の良い自然環境が残り、観光資源にもなっている。</p> <p>【哺乳類 (細田徹治)、爬虫類・両生類 (平井厚志)、魚類 (平嶋健太郎)、貝類 (湊宏)、その他無脊椎動物 (和田恵次)、植物 (瀧野秀二)、地形・地質 (吉松敏隆)】</p>	古座川町 串本町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
30	那智山周辺	森林 里山	<p>那智山周辺の山の上部には、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）が分布し、山麓には砂岩、礫岩、砂岩泥岩互層からなる熊野層群の三津野累層が分布する。山の上部は火成岩であるため、下部の堆積岩に比して侵食力に強く、従って、上部は急峻な地形になり、那智の滝の形成もこのような差別侵食による。また、付近には火成活動に伴う妙法鉱山等、いくつかの銅鉱床があり、かつては稼行していた。</p> <p>本地域は、大雲取山（966.2 m）・烏帽子山（909.5 m）・妙法山（749.5 m）にまたがる山域で、それぞれ分水嶺となって北方向に熊野川支流高田川が、南東方向に那智川、南方向に太田川支流熊瀬川が流れ始める。日本有数の多雨地で、地形は急峻であり、切り立つ岸壁に挟まれた廊下状の峡谷が所々に形成されている。烏帽子山から妙法山一帯は吉野熊野国立公園の一部であり、国指定天然記念物那智原始林や那智の滝は著名である。</p> <p>この地域は、那智の滝の東側、標高120~548 mの南向き斜面に位置する森林で、標高400 m付近ではツガヤスギが混じるが、大部分は照葉樹林である。標高約200 mには東西に発電用水路があり、水路を境に上下で植生が異なる。上部森林は主にツブラジイ（コジイ）やウラジロガシからなり、下部はクスノキ、ホルトノキ、イチイガシ、バクチノキ、ヒメユズリハ等、樹種も豊富で大径木も多い。湿度が高いため、シダ植物やつる植物、着生ランも多い。シダではリュウビントイ、ヤワラハチジョウシダ、ナンカクランが、つる植物ではウドカズラ、サカキカズラ、カギカズラ、着生ランではマメツタラン、ムギラン等である。</p> <p>菌類では、シイノトモシビタケが1995年に八丈島以外の国内記録として和歌山県すさみ町周辺で発見されたことから、県内南部のシイ林を調査したところ、那智山周辺でも発生が確認された。</p> <p>哺乳類では、ヤチネズミ、ニホンリス、ニホンカモシカ等が生息している。更に、廃坑等の洞穴ではキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ等が確認されている。</p> <p>昆虫類では、ナチグロコナジラミ、ナチキシタドクガ、ナチアオシャチホコ、ナチセスジゲンゴロウ等、那智の名を冠する昆虫類のタイプ産地であり、ナンキセダカコブヤハズカミキリやミツギリゾウムシ等も生息する。</p> <p>那智山は、陸産貝類にとって紀南の代表的な生息地で、ここをタイプ産地とする種が多い。ナチマイマイ、マルクチコギセル、アナナシマイマイ、キイゴマガイ、ベニゴマガイ等が挙げられる。</p> <p>爬虫類・両生類では、那智山周辺の源流域にハコネサンショウウオ等が生息し、那智川上流部にニホンイシガメ、ニホンイモリ、カジカガエル等が生息する。</p> <p>魚類では、急傾斜に広がる棚田周辺のため池等にミナミメダカ東日本集団が残る。しかし、近年は耕作放棄地が増え、外来魚の侵入もあり、影響が懸念される。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	那智勝浦町 新宮市
31	宇久井半島	海岸 森林	<p>この地域は、砂州によって標高57.9 mの島が宇久井の陸側と接続したトンボロ（陸繋島）の地形をなし、北側の浜は砂州の原形をとどめている。</p> <p>目覚山から駒が崎にかけて、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）が、地玉の浜には牟婁付加シークエンスの田並川層が分布する。外の取の流紋岩は、きれいな柱状節理が発達する。地玉の浜の田並川層の礫岩層中には、オルソコーツァイト礫が含まれている。</p> <p>半島全体には、スタジイ、タブノキ、ヤブニッケイ、ヤマモモ、モチノキ、ホルトノキ等の照葉樹林が広がり、オガタモノキやハマセンダンが多いのも特徴と言える。また、アオノクマタケラン、ヒロハテイショウソウ、ハルザキヤツシロラン、リュウビントイ、ヘゴ等が確認されている。</p> <p>菌類では、シイノトモシビタケが1995年に八丈島以外の国内記録として和歌山県すさみ町周辺で発見されたことから、県内南部のシイ林を調査したところ、宇久井半島周辺でも発生が確認された。</p> <p>昆虫類では、この地域は、本州唯一のルイスツノヒョウタンクワガタとトゲウスバカミキリの生息地であり、他にもカグヤヒメキクイゾウムシやネジロツブゾウムシ、キイロミヤマカミキリ、コヒラタホソカタムシ等の南方系甲虫類が多く生息している。</p> <p>【昆虫類（的場 績）、菌類（菌類専門部会）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	那智勝浦町

生物多様性保全上
注目すべき地域

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
32	王子ヶ浜及び孔島・鈴島周辺	海岸島嶼森林	<p>王子ヶ浜は、熊野川の河口から南西方向に延長 3.2 km、幅 50 m に広がる礫浜で、一部砂州を形成する。ストームベンチやカस्पが発達する。鈴島には小規模な貫通した海食洞があり、孔島には波食棚が広がる。</p> <p>鈴島、孔島は牟婁付加シークエンスの田並川層の砂岩泥岩互層や砂岩、及びそれを不整合で覆う熊野層群の小口累層が分布する。両者の不整合は孔島の波食棚で観察できる。</p> <p>王子ヶ浜には、ハマボウ、ハマアザミ、ハマヒルガオ、ハマエンドウ等の海浜植物群落が見られる。広角台地中央部の谷沿いは、リュウビンタイ、クサマルハチの大群落等があり、大変貴重である。広角から三輪崎に続く高野坂でもリュウビンタイ等の自生地がある。孔島は、ハマオモトの群生地として知られているが、数少ないノアサガオの自生地として貴重である。</p> <p>また、王子ヶ浜はアカウミガメの産卵地である。地域の人々が長くその上陸・産卵の調査・記録を行い、保護活動が続けている。</p> <p>鳥類では、孔島・鈴島において、ウチヤマセンニュウが繁殖する。</p> <p>【鳥類（沼野正博）、爬虫類（玉井清夫）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	新宮市
33	新宮藺沢浮島の森	湿地森林	<p>浮島の森は、縄文海進後の海退に伴って形成された沼沢・湿地帯にできた泥炭層からなる。上位の泥炭層と粘土層を挟む下位の泥炭層との間には水層があり、島の西側では上位の泥炭層が浮遊した状態にある。下位の泥炭層中には、7,300 年前に降下したアカホヤ火山灰層が挟まれている。</p> <p>昭和の初めに天然記念物に指定された当時は、高木のスギが 337 本記録されていて、島全体をスギが覆っていたと考えられる。最近の調査では、スギの本数が減少し、現在では移植スギを合わせて 150 本程になっている。ヤマモモやクスノキ等の常緑樹が増加して林床は暗くなり、陽樹であるスギの幼木が生育できない状況となっている。林床では、耐陰性の強いミミズバイやトウゴクシダが増加しているのが現状である。林床を明るく保ち、いかにして遷移を遅らせるかが課題と言える。なお、希少種であるマツバラシバやテツホシダは増加傾向にあり、ヤマドリゼンマイは 13ヶ所で生育が確認されている。また、本地域は国の重要湿地にも選定されている。</p> <p>【植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	新宮市
34	千穂ヶ峯	森林	<p>標高 253.4 m の千穂ヶ峯は、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）からなる。山体の西側は、熊野川の浸食により急崖をなす。</p> <p>植物では、多くの絶滅危惧種が確認されている。リュウビンタイやクサマルハチ、ムカゴサイシンの他、シロシャクジョウやモウセンゴケ等、ごく狭い範囲にこれだけ多くの希少植物が見られるのは大変珍しい。</p> <p>また、哺乳類では、ニホンカモシカやアカギツネ等が確認されている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	新宮市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
35	白見山	森林	<p>白見山周辺は、古くから林業施業地として利用されてきた地域である。しかし、自然林も残されていて、田長谷は独特の地形を有し、下流部には立派な鼻白滝があり、貴重な生物が多く残っている。</p> <p>本地域では、白見山から大雲取山まで、ほぼ南北に標高 900 m の稜線が続いている。西側の大部分は植林地だが、東側の一部と稜線部には自然林が残り、下部はツブラジイ林、次いでモミ・ツガ林、最上部はアカガシ林となっている。急峻な崖地にはアケボノツツジが自生し、ブナも数本見られる。また、植林地の林床で、シコクスミレやバイケイソウの生育が確認されている。</p> <p>哺乳類では、この地域の周辺において、ヒメヒミズ、カワネズミ、ヤチネズミ、ヤマネ、ニホンカモシカが生息し、廃坑等の洞穴ではテングコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ等が確認されている。</p> <p>また、両生類では、マホロバサンショウウオ等が生息し、かつてはハコネサンショウウオもいた。田長谷にはナガレヒキガエルやニホンイモリが生息する。</p> <p>更に、昆虫類では、ナンキセダカコブヤハズカミキリが記録されている。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、両生類（玉井濟夫）、昆虫類（的場 績）、植物（瀧野秀二）】</p>	那智勝浦町 新宮市
36	和田川 峡	森林 河川	<p>和田川は、熊野川の支流赤木川の支谷で、源流は足郷山、小口で赤木川に合流する。和田川峡は、下流部で支谷の鳴谷から白谷までの間を指し、浸食作用による渓谷美を醸し出す。一部に長瀬と呼ばれるところもある。</p> <p>付近には、泥岩や砂岩泥岩互層からなる熊野層群小口累層が分布する。</p> <p>この地域は、足郷山 (889 m) を源とする和田川峡と、那智勝浦町大野地内の峯山 (879 m) を源とする静閑瀬に挟まれた大倉畑山 (774.5 m) を擁する峡谷と山域である。</p> <p>和田川峡、静閑瀬ともに複雑に蛇行する峡谷で、独特のゴルジュ帯 (V 字谷) を形成しており、比高の大きい切り立つ岩崖が独特の景観を呈している。いたるところに険しい支谷が合流し、優れた崖地植生が残されている。</p> <p>和田川兩岸の断崖部は、ツブラジイ (コジイ) やウバメガシが優占する二次林で、上部の尾根筋はツガ、ゴヨウマツ、ヒノキ等の自然林が残存する。県道沿いの岸壁にはクルマギク、川沿いの岸壁にはラン科植物の他、キイジョウロウホトトギス等の生育が確認されている。</p> <p>両生類では、源流域に、ハコネサンショウウオやナガレヒキガエル等が、流域中部のやや開けた流れに、ニホンイモリ、ニホンヒキガエル、カジカガエル等が生息している。</p> <p>昆虫類では、上流部にナガサキクビナガゴミムシ、ヨツモンカタキバゴミムシ、タマスキオニゾウムシ等の希少種が記録されており、足郷山付近では、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、ルイスヒゲボソゾウムシ等のレッドデータブック掲載種や希少種のヘリハネムシが記録されている。</p> <p>哺乳類では、和田川沿い県道の隧道において、ノレンコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリが確認されている。また、森林内にはニホンカモシカやヤチネズミが生息する。</p> <p>魚類では、ナガレホトケドジョウやサツキマス (アマゴ) の生息が確認されている。特に、人の影響が少ないため、サツキマス (アマゴ) 等のサケ科魚類等の繁殖が確認されている。ただし、過去にアユやサケ科の放流も行われており、これらの在来の個体群は既に失われていると考えられる。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	新宮市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名称	主な生態系	概要	市町村
37	熊野川流域	河川 森林 里山	<p>この地域には、熊野川の河口から田長にかけて、熊野酸性火成岩類が分布し、河岸が断崖をなすことが多く、九里峡と呼ばれ、壘岩や釣鐘岩、陽石、なびき石、葵の滝、布引滝等の景観をつくる。田長の猪岩は、右岸に張り出す流紋岩（花崗斑岩）の断崖である。また、田長谷は、流紋岩、一部流紋岩質凝灰岩の分布域の西側の縁を流下し、下流部に鼻白の滝をつくる。</p> <p>また、日足付近には流紋岩質凝灰岩が分布する。日足から請川付近には、熊野層群の小口累層や三津野累層が、請川から本宮にかけては音無川付加シークエンスの羽六層が分布する。熊野川左岸の椋呂付近では、大峰酸性岩類の火成活動に伴う岩脈が低角で熊野層群中に貫入している。</p> <p>北山川は、穿入蛇行をくり返しながらか、七色ダムから下流で峡谷（七色峡、北山川、瀨八丁）や淵（相須ヶ淵、黒淵）、瀬、中州（大沼）、河岸段丘（下尾井）を形成しながら流下し、宮井で本流と合流する。</p> <p>七色ダムから玉置口付近の東西に延びる板屋断層までは、日高川帯の竜神付加コンプレックスの地層が分布する。そこから宮井までの間には熊野層群の小口累層や三津野累層が分布し、右岸側の山の中腹には大峰酸性岩類の火成活動に伴う流紋岩（花崗斑岩）の岩脈が低角で貫入している。</p> <p>熊野川は、大峰山脈・台高山脈・護摩壇山系・果無山脈・大塔山系等、紀伊山地を流域とする紀伊半島最大の河川である。奈良県山上ヶ岳（1,719 m）を源に十津川渓谷を南に流れる十津川と、大台ヶ原山一帯を源に七色峡、瀨峡を経て南西に流れる北山川が熊野川町宮井地区で合流し、新宮市で熊野灘に注ぐ。優れた自然環境として、大台ヶ原山から大峰山地、北山川流域、熊野川河口部にかけて広く吉野熊野国立公園の陸域に指定されている。</p> <p>和歌山県では田辺市（本宮町）、新宮市、北山村が熊野川流域となる。中でも、北山村（飛地）から新宮市熊野川町、新宮市田長谷にかけては熊野川の浸食によって険しい岩崖地が形成され、独特の峡谷景観を呈している。</p> <p>流域の森林は、ほぼスギ・ヒノキの植林地であるが、一部にはツブラジイ（コジイ）等の常緑樹林が残る。河岸の植物ではキイトラッキョウ、カワゼンゴ、ドロニガナ、ドロノシモツケ等の多くが七色峡から下流域まで分布している。また、北山川支流の四の川上流部の湿岩上にはセンダイソウが見られ、ミヤマムギラン等の樹幹への着生も見られる。</p> <p>哺乳類では、森林にツキノワグマ、ニホンリス、ニホンカモシカが生息し、流域に点在する廃坑等の洞穴ではキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリが確認されている。</p> <p>鳥類では、瀨峡周辺に、ヤイロチョウやアカショウビン等、希少種が繁殖する。</p> <p>爬虫類・両生類では、流域にマホロバサンショウウオ、ハコネサンショウウオ等が生息し、本流やその周辺の里山にニホンイシガメ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエル、カジカガエル等が生息している。</p> <p>昆虫類では、熊野川下流域にトラハナムグリやアイヌハンミョウ、アイヌテントウ等、和歌山県では山地性の種と思われる昆虫類が記録されており、モリモトシギゾウムシ、ナラノチャイロコガネ、カワラバタ等の希少種も記録されている。田長谷は、コルリクワガタの分布南限であり、紀伊半島固有種のホングウオビモンヒョウタンゾウムシとスサミオビモンヒョウタンゾウムシの分布境界でもあり、谷の下流域ではホングウオビモンヒョウタンゾウムシ、上流部ではスサミオビモンヒョウタンゾウムシがそれぞれ分布している。</p> <p>陸産貝類では、ミツクリギセル、シリプトギセル、サドヤマトガイ等、多くの種が記録されている。また、ナチマイマイ等も生息している。</p> <p>一方で、河口は常時閉塞気味であり、河川敷の改修等が頻繁に行われているため、通し回遊魚への影響が懸念される。淡水域は、ダムからの放水で濁度が高いが、北山川や赤木川等の支流は透明度が高く、生物量も多い。アユ、スナヤツメ科、サツキマス（アマゴ）等の魚類が生息している。</p> <p>【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場 績）、貝類（湊 宏）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】</p>	北山村 田辺市 新宮市